

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

1日に実施した現地調査及び海上保安庁第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ火口第4火口の火口壁における地熱域のわずかな拡大や、96-1火口底の温度上昇が認められました。また、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の勢いが増加していることを確認しました。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする、微小な火山性地震は、2015年4月中旬以前の活動と比べて依然としてやや多い状態です。

【防災上の警戒事項等】

雌阿寒岳では、今後も火口周辺に影響を及ぼす、ごく小さな噴火が発生する可能性があります。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1～6）

10月1日に現地調査及び海上保安庁第一管区海上保安本部の協力により上空からの観測を実施しました。今年7月の現地調査と比較してポンマチネシリ火口第4火口北壁における地熱域のわずかな拡大や、昨年10月の現地調査と比較し96-1火口底の温度上昇が確認されました（赤外熱映像装置¹⁾による）。

また、現地調査では96-1火口の噴煙の勢いの増加や強い刺激臭を感じており、火山ガスの放出量が増加している可能性があります。

遠望カメラによる観測によると、ポンマチネシリ96-1火口では2010年以降で比較すると、今年6月頃から噴煙量がやや多い状態が続いています。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図6・7）

ポンマチネシリ96-1火口南側で実施している全磁力連続観測²⁾によると、全磁力は2014年3月以降概ね横ばいで推移していましたが、2015年3月中旬以降は減少傾向を示しています。このことから、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

・地震の発生状況等（図8）

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする、身体には感じない程度の微小な火山性地震は8月に入り減少し、8月下旬以降1日あたり10回程度以下で推移していますが、2015年4月中旬以前の活動と比べて依然としてやや多い状態です。

火山性微動は発生しておらず、地殻変動に特段の変化は認められていません。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります

2) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

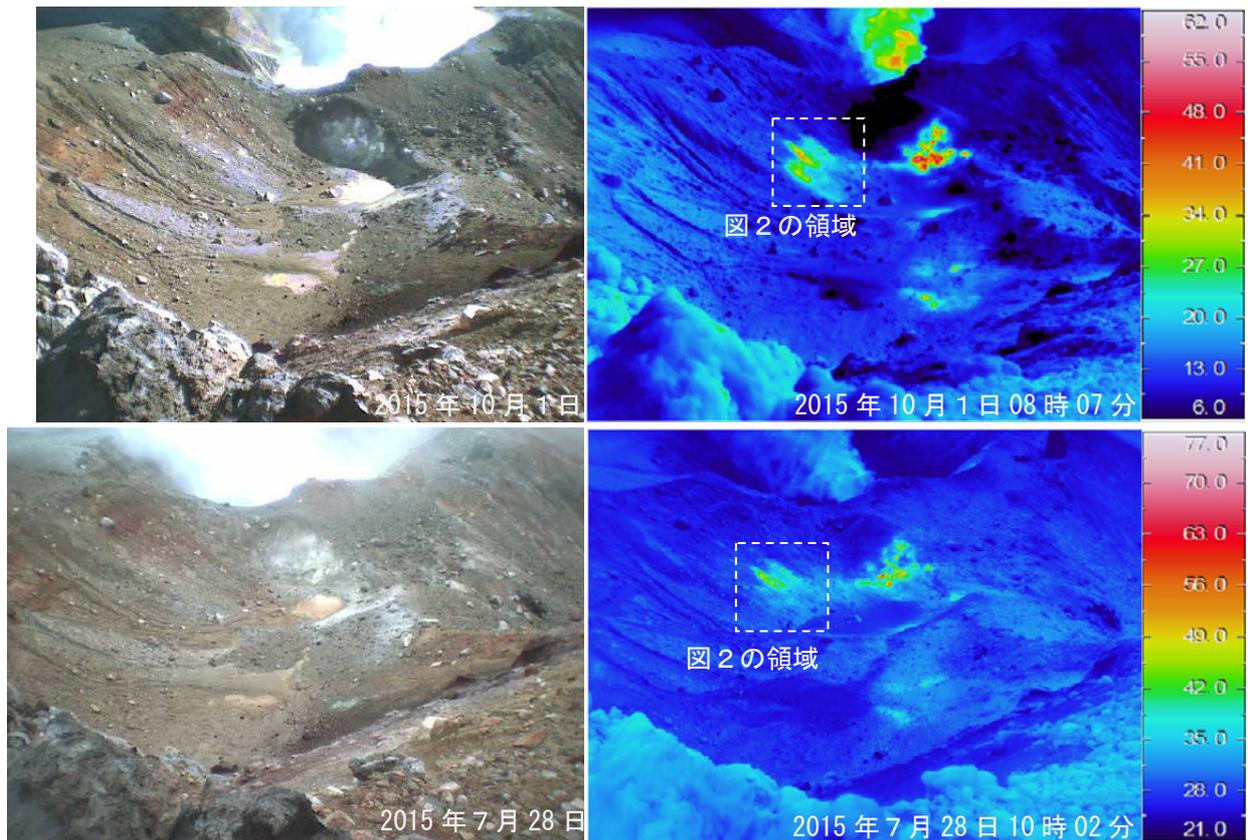


図1 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口第3火口及び第4火口の地表面温度分布
西側定点 (図4-①) から撮影

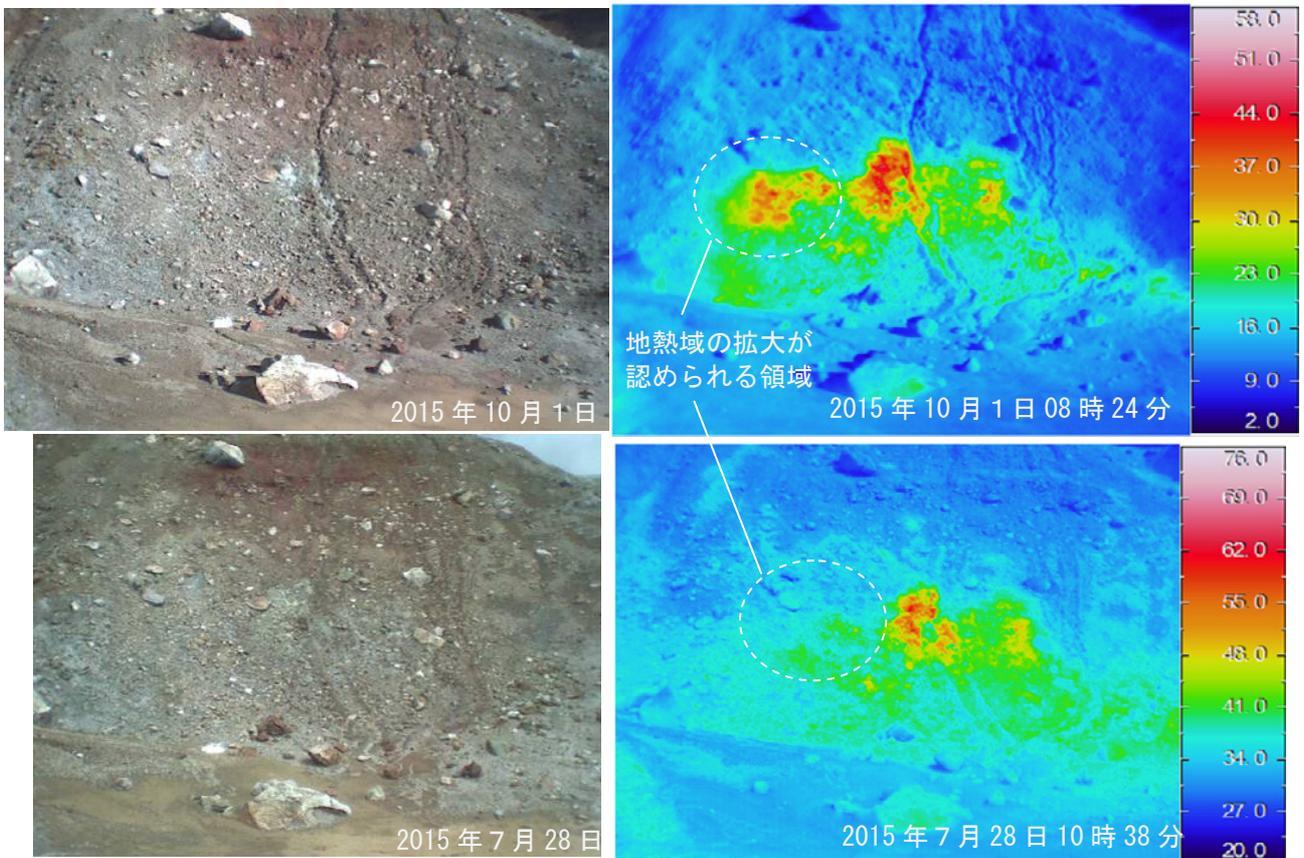


図2 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口第4火口北壁の地表面温度分布
図1の囲み部分を近距離から撮影
丸囲みの領域で地熱域の拡大が認められる

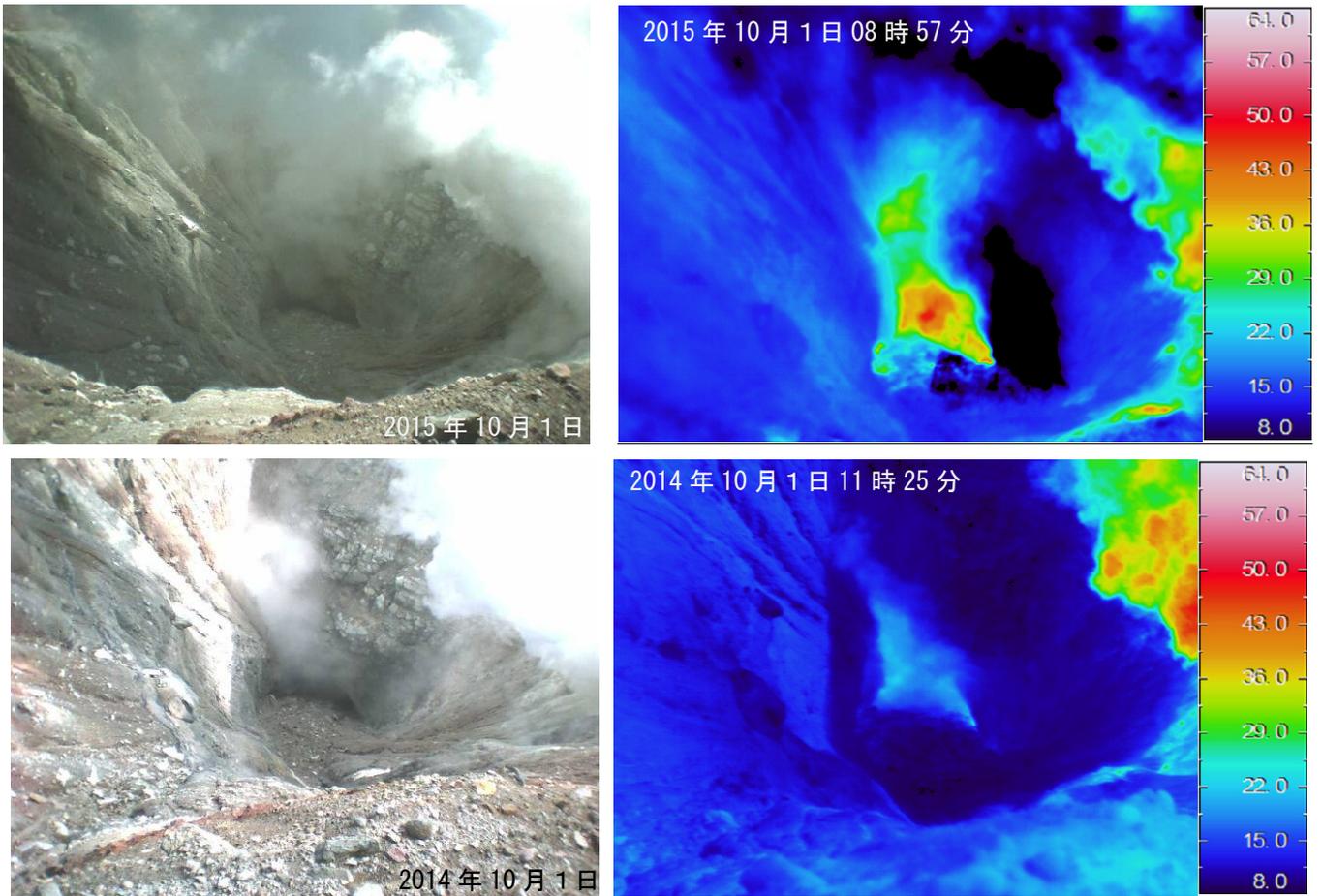


図3 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ96-1火口底の地表面温度分布
北西側から撮影
96-1火口底の温度上昇が認められる

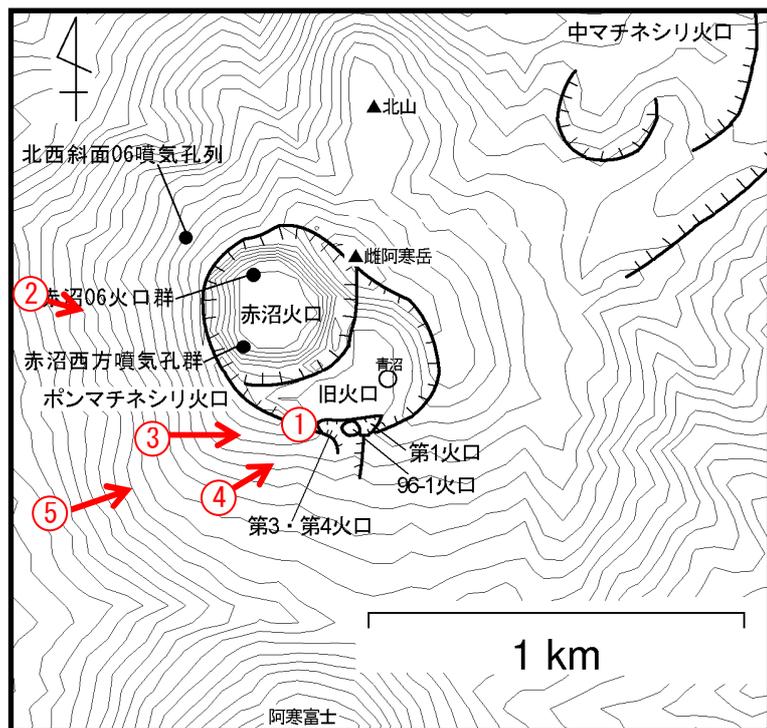


図4 雌阿寒岳 写真及び赤外熱映像の撮影方向

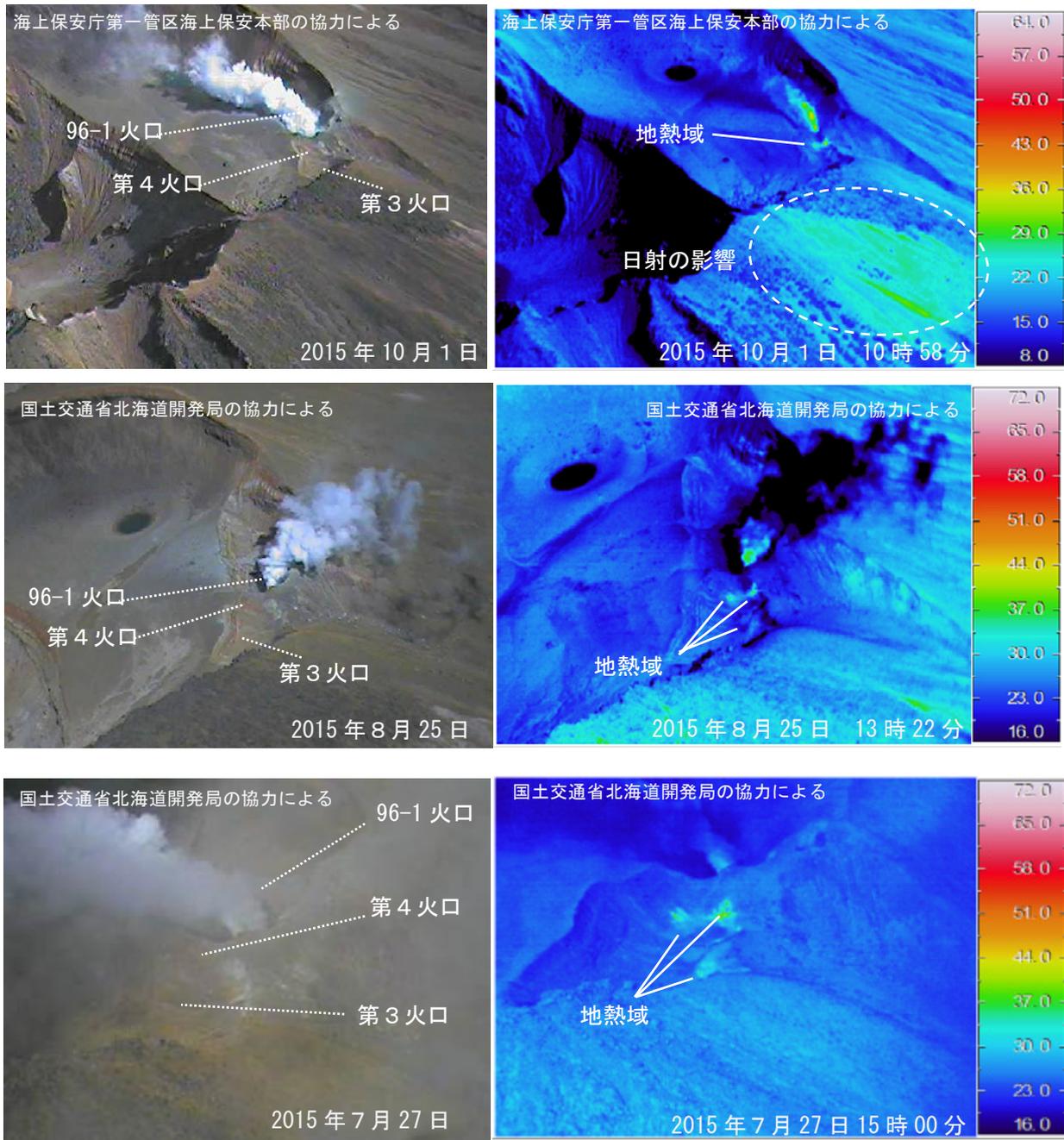


図 5 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口の地表面温度分布
 撮影方向 上図：図 4-②から 中図：図 4-③から 下図：図 4-④から
 引き続き第 3・第 4 火口の地熱域が認められる

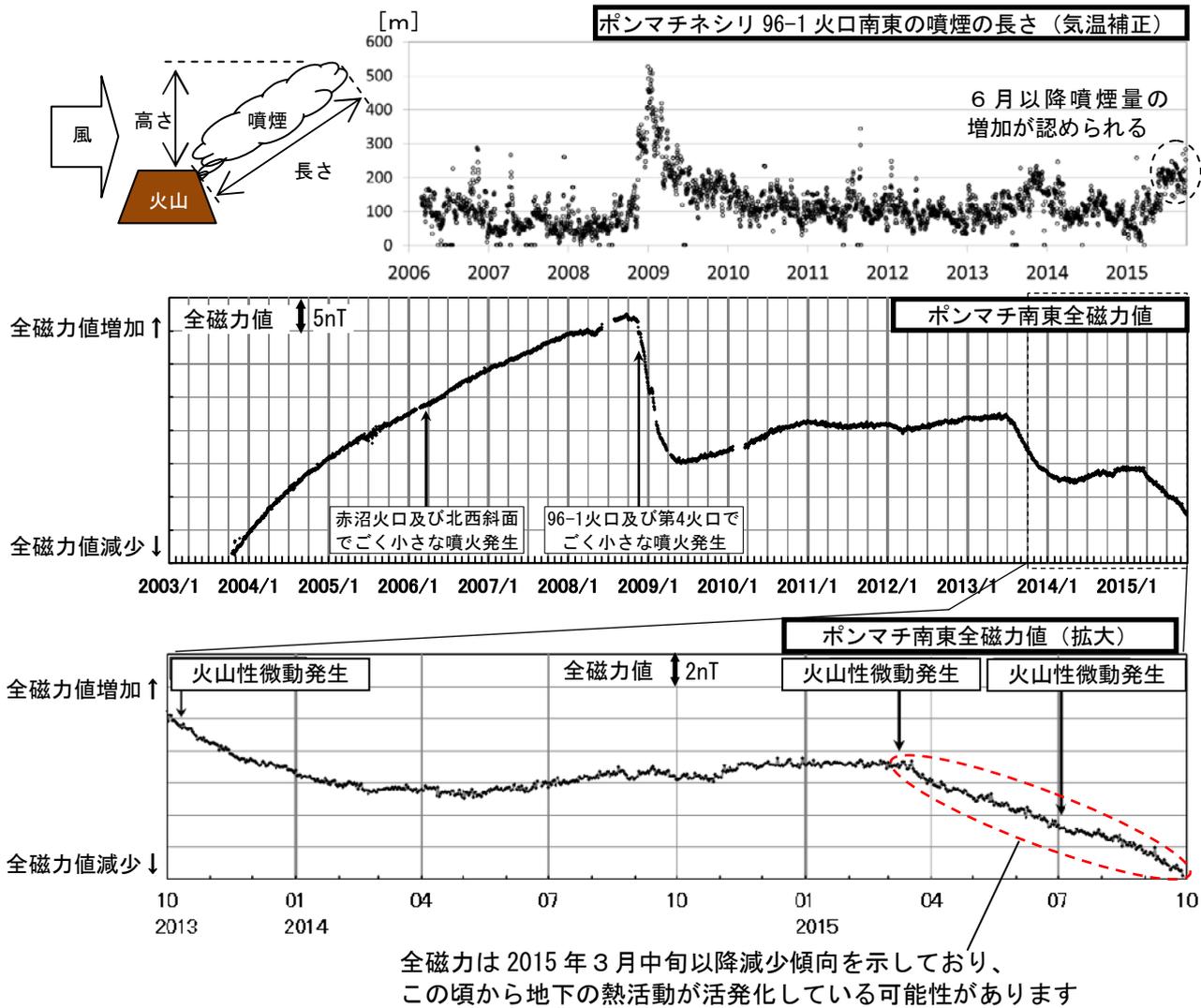


図 6 雌阿寒岳 気温補正した噴煙の長さ (上図)、及び全磁力連続観測点ポンマチ南東 (図 7 ◎) の全磁力値変化 (中図・下図)
 上図: 2006年 3 月 1 日~2015年 9 月 28 日
 中図: 2003年 10 月 16 日~2015年 9 月 28 日
 下図: 2013年 10 月 1 日~2015年 9 月 28 日
 ・グラフの空白部分は欠測期間です

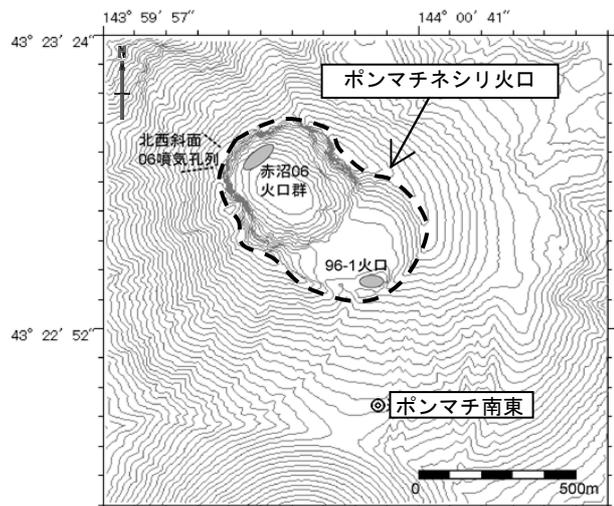


図 7 雌阿寒岳 全磁力連続観測点ポンマチ南東の位置

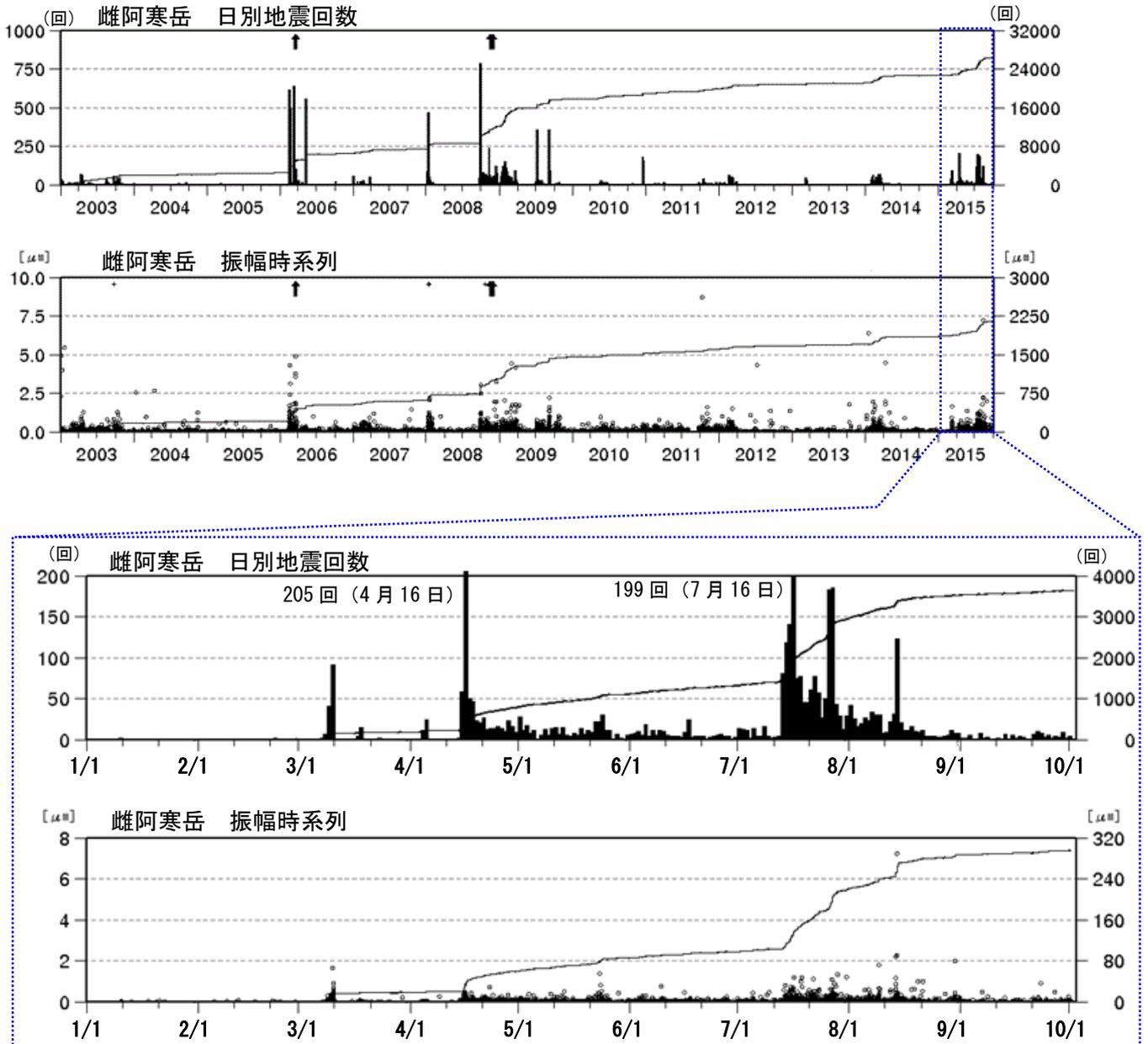


図 8 雌阿寒岳 日別地震回数及び振幅時系列 上図：2003年1月1日～2015年10月1日

下図：2015年1月1日～2015年10月1日

- ・ 計数基準：オンネトー南東で $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P時間2秒以内の火山性地震です
- ・ 黒線は積算回数及び振幅積算を示します
- ・ \uparrow はごく小規模な噴火の発生を示します
- ・ $+$ は振幅が振り切れた地震を表示しています